

漫画研究への扉

日下, 翠
九州大学大学院比較社会文化研究院

南雲, 大悟
國學院大学・二松学舎大学・日本大学非常勤講師

アンカナー, ジラジランチャイ
九州大学大学院比較社会文化学府博士課程

佐島, 顕子
福岡女学院大学人文学部現代文化学科

他

<https://hdl.handle.net/2324/16791>

出版情報：日下翠教授中国文学・漫画学著作集成，2005-09-20. 梓書院
バージョン：
権利関係：

はじめに

日本の漫画は、豊穡な文化的蓄積の上に手塚治虫らの出現を経て驚異的な発展をとげ、今や唯一の輸出超過文化であると言われるまでになっている。日本にやってくる留学生たちも、俳句や歌舞伎は知らなくても「しんちゃん」や「ドラえもん」は知っている。かつては「どうして日本では大人でも漫画を読むのか」と不思議そうに訊ねられることがよくあったが、日本漫画の最新作があつという間に翻訳されて韓国や台湾の書店に並び、少年探偵コナンやピカチュウにはバンコクの書店でもお目にかかれるようになった今日、「日本語を勉強しようと思ったきっかけは日本の漫画」という留学生も珍しくなくなった。日本女性の中で最も有名な人は「おしん」であったが、そのうち「まる子」ということになるかもしれない。

日本漫画の受容が進みその影響を受けたアジア各国でも、漫画文化が大きく発展しようとしている。しかし、それぞれに蓄積された文化と社会状況の中で、その発展の様相は一様ではない。ここで、各国それぞれの漫画文化や日本漫画受容の状況を眺めてみることは、日本でこれほどまでに発展した漫画という文化の姿をよりよく認識することにつながるだろう。本書はそのような動機で編まれたものである。

第1部では、日本に次ぐ漫画大国と言える韓国、漫画という新しい表現に対して微妙な態度を見せる中国、日本漫画の進出目覚ましいタイの漫画文化を紹介する論文を収録し、アジアにおける漫画文化の今を概観する。

第2部には、漫画言語の研究、漫画の語学教育への利用、背景のかなり異なるフランスでの事情など、漫画研究の広がりを見せる論文を収録した。

第3部には、漫画文化をめぐる中国国内での評論を幾つか取り上げた。

漫画が映画と同様に芸術表現の一つとしての地位を確立していくであろうことは疑いがない。漫画および漫画研究に関心を持つ人々にとって本書が方向性を探るための一つの手がかりを提供するものとなれば幸いである。

日 下 翠